学校建設事業、ついに完了!

北コルドファン州にて、2019年より開始した
学校建設事業をついに完了することができました。
現地からの喜びの声をお伝えしたく、ご報告いたします。

政変、新型コロナ、通貨暴落…長く険しい道のり

事業のはじまりは、時を遡り2019年でした。しかし、事業の準備を開始した矢先から政変勃発や治安悪化、新型コロナの流行により何度も駐在員退避となり、事業をストップせざるを得ない状況になりました。

2021年の帰任後も、通貨切り下げ、通貨大暴落、燃料の高騰と供給不足、建築資材の高騰、不安定な情勢による頻繁な行政組織の改変、それによる書類や手続きのやり直し、教育制度改革、断続的に続く抗議行動による都市機能の低下や交通遮断など、あげればきりがない程の社会的困難がありました。

老朽化した校舎、読めない黒板、衛生環境も問題

事業地は、これまで栄養事業、水事業も行ってきた北コルドファン州オンムダム・ハージ・アハメド地域オンムサマーマ区で、以前より、地域住民から学校改修の要望が寄せられていました。学校を訪問してみると、

- 校舎は、激しい砂嵐で基礎が露出していたり、壁が崩壊していたりして危険な状態
- 黒板がボロボロで文字が読めない
- 学校を囲うフェンスがないためにたびたび動物が入り込み、授業の妨げに
- 子どもの数に対して校舎が足りず、外で学ぶクラスがある
- きちんとしたトイレがなく、そのために学校に行きたがらない子も
- 手洗い場がなく、感染症対策に課題

といった厳しい状況でした。こうした状況を受け、学習環境と衛生環境の改善を目的に、校舎の改修・建設、トイレ、手洗い場、焼却炉、フェンス、机と椅子の導入に取り組みました。学校事業の対象と定めたのは特に厳しい状況にあった小学校3校で、調査当時の在籍は、生徒約1200名、教員約20名でした。

「医」を届ける活動と、学校の意味

ロシナンテスは、「『医』を届ける」ことに注力しています。ここで、学校事業と「医」のつながりについてもお伝えしたいと思います。スーダンの識字率は60・7%(2018年、世界銀行)で、人口の約40%は読み書きが難しいという現状があります。読み書きができると、得られる情報や知識が格段に増えることは想像に難くありません。初等教育の環境を整えることで、健康に関する知識を得られる機会も増やせるのではないかと考えています。また、学校は地域に住む子どもたちに新たな情報を家に持ち帰ってもらうための啓発の場としても大きな役割を持っています。

住民たちで学校運営できる仕組みづくり

学校完成後、学校管理委員会を設置しました。長く学びの場として地域で使えるよう、学校の維持管理を担ってもらうためです。各学校の地域住民の中から選出された委員のみなさんに対して、建築家や保健省の職員から学校管理と公衆衛生に関する研修を2日間実施してもらいました。研修前半では、トイレや手洗い場、焼却炉などの安全な使用方法や管理方法を伝えました。研修後半では、問題が起こったらどう対応するかといったグループワークの演習を行いました。活発な議論が行われ、積極的な委員のみなさんの様子に、心強い気持ちになりました。

地域に起きたうれしいできごと

オンムサマーマ区の地域住民とは、2015年から一緒に事業を行ってきました。彼らはただ支援を待つのではなく、なにか自分たちにできることはないかと、寄り合い、知恵を絞り、様々な工夫をして、事業をより良いものにしています。今回も、私たちが想定していなかった創意工夫が生まれました。

学校の手洗い場には、給水所からロバの荷台を活用して水を運んでくる予定でした。しかし、以前ロシナンテスが建設した給水所からパイプをつないではどうかということになり、地域住民が資金を出し合って設置が実現しました。

これから、たくさんの子どもたちに安心して学べる環境とより衛生的な環境を提供できたことを嬉しく思います。この小学校3校が、今後末永く地域社会に貢献することを願っています。

完成した校舎

校舎も黒板もきれいになり、快適な環境で授業を受けられるようになりました

トイレや手洗いができる給水施設を設置し衛生環境も整えました

学校管理委員会の研修意欲的に参加してくれました

オンムサマーマ区の複数の学校を統括している先生からのメッセージ

「以前の校舎は危険だったため、せっかく通学し始めた子どもたちが離れてくこともありました。日本のみなさんのご支援のおかげで、安心して学べる環境になり、また子どもたちが学校に戻ってきました。本当に心から感謝しています。」

遠回り

《第29号》
認定NPO法人ロシナンテス
発行
〒802-0082
北九州市小倉北区古船場町1-35
北九州市立商工貿易会館 7F
TEL:093-521-6470
E-Mail:info@rocinantes.org
特定非営利活動法人ロシナンテス ROCINANTES

スーダンだより
地域保健人材育成……2面
ザンビアだより
井戸掘削……3面
高山理事からの
ザンビア現地レポート…4面
スーダンの物価情勢／
日々ツラツラ日記……5面
国内イベント情報
イベントレポート……6面
国内情報……7面
事務局からのお知らせ…8面

事務局だより

みなさん、こんにちは。昨年4月に入職し、もうすぐ1年が経ちます。支援者の皆さまのあたたかいお気持ちと、スタッフの熱い情熱を感じることができ、改めて一員となれたことをとても幸せに感じています。

さて、私は旅行が趣味で全国の色々なところ行き、そこの景色や食べ物を楽しむのですが、最近は旅先ですれ違ったあの人も、話しかけてくれたこの人もチーム・ロシナンテスの仲間かも？！と勝手に想像し、旅を楽しんでいます。

同じ方向を向き、一緒に歩む仲間が隣にいるかもしれないと思うだけで、心強く挑戦したくなります。ロシナンテスの活動も色々な障害や困難もありますが、仲間がいるから挑戦し、乗り越えられています。住んでいる場所や環境は違いますが、チーム・ロシナンテス全員で活動していることを誇りに、これからも心を一つにし、皆でがんばりましょう！

私たちNPO法人ロシナンテスの名前は、小説「ドンキホーテ」に出てくるドンキホーテが乗る痩せ馬のロシナンテに由来しています。「私たち一人一人は痩せ馬ロシナンテのように無力かもしれないが、ロシナンテが集まり、ロシナンテ**ス**になれば、きっと何かできるはずだ！」と考え、「ロシナンテス」と名付けました。

今後もこれを信念として一歩一歩進んでいきたいと考えておりますので、皆さまのご支援をよろしくお願い致します。

遠回りのスマホ版ができました

支援者の皆さまに年2回お送りしている会報「遠回り」について、この度、新たにスマートフォン専用のPDFを作成いたしました。近年、会報をEメールで送ってほしいとご要望いただくことも増えている一方で、新聞形式のものはスマートフォンでは読みづらいとご意見をいただいていました。縦型サイズでスマートフォンでも読みやすいよう大きく文字をレイアウトしております。ウェブサイトにも掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

また、今後、会報や年次報告書の郵送を停止しEメールでの受領に変更されたい場合は、当団体ウェブサイトよりお申込みいただけます(お電話、Eメールでも受け付けています)。
https://www.rocinantes.org/mail/withdrawal/

寄付者アンケートご協力お願い

この度、本会報「遠回り」に同封するかたちで、寄付者アンケートを実施することとなりました。
今後の団体運営、支援活動の参考にさせていただきたく、ぜひ忌憚のないご意見をお寄せいただけましたら幸いです。

目　　的■寄付の動機や満足度、団体の活動へのご意見、ご要望のヒアリング
期　　間■2023年4月10日～5月9日
実施形式■アンケート用紙およびウェブアンケート
回答方法■①②いずれかの方法でご協力をお願いいたします。
①同封のアンケート用紙にご記入の上、FAXにてお送りください。 FAX: 093-521-6471
また、事務局への郵送でのご返信も受け付けております。
②4月10日配信の支援者限定メールにウェブアンケートを載せております。
メール記載のアンケートURLよりご回答ください。

ご住所の変更はございませんか?

ご住所が変わった場合は下記のいずれかの方法でお知らせください。

①ホームページ
https://www.rocinantes.org/support/change/
②メール info@rocinantes.org
③お電話 093-521-6470 (平日10:00～17:00)

その他、お電話番号やメールアドレス等の各種変更についても、それぞれ変更前・後の情報を上記いずれかの方法にてお知らせください。お手続きについてご不明な点等、お気軽にお問い合わせ下さい。

募金箱を設置していただけるところを募集中です

ご検討いただける方は、お電話もしくは、お問合せフォームよりご連絡ください。
https://www.rocinantes.org/contact/

ロシナンテス応援企業

内科・外科・消化器内科・緩和ケア内科
医療法人 明気会
岩本クリニック
理事長 岩本拓也
北九州市小倉南区中貫一丁目20-50
TEL 093-472-1281
FAX 093-472-6712

がんばれロシナンテス!
税理士法人
小城会計事務所
北海道旭川市東光8条1丁目1-1
TEL.0166-31-2313

内科／消化器内科／リウマチ科
柏木内科医院
院長 柏木 陽一郎
〒802-0064 福岡県北九州市小倉北区片野2-21-10
tel 093-921-7943／http://www.kashiwagi-naika.com/

ロシナンテスのスタッフを応援します!!
日常の事業活動の利益を
NPO活動の篤志へ繋げたい
時計宝飾・古物売買
株式会社 ブランドリーネ
代表取締役 青山晃一
〒276-0046
千葉県八千代市大和田新田355-16-103
TEL:047-450-5720
yachiyo@e-daikoku.com
https://shop.e-daikoku.com/info/spot/detail?code=0000000239

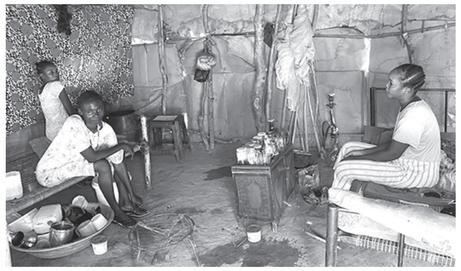
スーダンだより

Sudan

灼熱の大地で奔走するロシナンテたちの〝いま〟

ハルツーム州東部の新たな地域でも地域保健人材育成事業を開始！

ロシナンテスがこれまで巡回診療や診療所建設を行ってきた、ハルツーム州東部のシャルガニール地域オンムダウワーバーン区にて、この度、地域保健人材育成事業が始動しました。これは、地域における感染症予防や保健衛生知識の向上を通じて、基本的な医療サービスへのアクセス向上と予防の促進を目指し、行政と協働で行っていくものです。まずは、アルウィファグ村での給水施設の改修から着手していきます。本事業は、風に立つライオン基金様からのご支援、およびご支援者の皆さまからのご寄付で実施いたします。


難民・国内避難民居住区の様子

近くに医療施設があっても、受診をためらう

ハルツーム州東部のシャルガニール地域では、広大な土地に村落や難民・国内避難民居住区などが点在しています。都市部から離れた村落部では、通える距離に医療施設がないことも多く、またインターネットや電話が通じないなどの理由で正しい情報の入手が難しい地域もあります。

今回の対象地域でも、

- **医療制度や施設についての情報が少ない**
- **薬代や交通費の捻出が難しい**
- **文化の違いから受診をためらう（特に異なる文化背景を持つ難民・国内避難民）**

といった理由から、医療施設へアクセスできていない人が多くいます。

こうした地域は、保健省が実施する啓発キャンペーンや国際機関・国際NGOの支援が届ききらないこともあり、新型コロナウイルス感染症対策を含む感染症の予防対策の知識や対処方法についての情報も行き届いていません。

2021年に訪れた村落部の住民の話では、新型コロナウイルス感染症の詳細や予防法について、知っていることはほとんどない、とのことでした。新型コロナの流行が始まっておよそ3年が経過しましたが、情報を隅々まで届けることの難しさを改めて実感しました。

村落部の医療アクセス向上を目指して

ロシナンテスは、こうした状況を改善するため、対象となる複数の村と、避難民キャンプからヘルスボランティアを選出し、感染症対策研修を実施します。その後、各地域でボランティアが地域住民に対して啓発活動を行います。この活動を通じて、スーダンの医療システムや社会制度への理解の向上、および正しい知識を学びワクチンを接種する住民が増加することが期待されています。

アルウィファグ村の現在の給水施設

さらに、対象地域の一つであるアルウィファグ村では、住民が導入した給水施設はあるものの、適切な規格のポンプやパイプでないこと、貯水タンクがないなど、機能的な利用のためには課題があります。同時に、感染症予防には水の確保が重要であるため、給水施設の改修を行っていきます。

ハルツーム州洪水被災者に衣料品を支援

2022年11月に、ハルツーム州オンバダ地域において、洪水被災者を対象に、子ども用肌着の衣料品を配布しました。これは、グンゼ株式会社様、および同社の有志社員様による会員組織グンゼラブアース倶楽部様よりご寄贈いただいたものです。これまで、スーダン国内での政情不安や、長期化する新型コロナウイルス感染拡大の影響により、現地での物資の配布活動を断念していましたが、この度、実現することができました。ご支援いただき、誠にありがとうございました。

夜間学校と診療所に明かりを届ける！教育環境支援事業

この度、パナソニックホールディングス株式会社様より、ソーラーランタン504台を寄贈していただくこととなりました。ソーラーランタンは、昼間太陽の光で発電した電気を電池に蓄えて使う小型の照明であり、使用に伴って二酸化炭素を発生することのない、環境に優しい器具です。

この取り組みは、同社の「無電化地域の未来を照らすプロジェクトLIGHT UP THE FUTURE」プロジェクトの一環として行われています。再生可能エネルギーによるあかりを、NGOや国際機関などのパートナーと連携して無電化地域に届け、教育や健康、収入向上の機会創出をすることで貧困のない持続可能な社会づくりに貢献するものです。

ロシナンテスでは、現地調査の結果、北コルドファン州にある電気のない4つの村（オンムサマー村、ロカップ村、アブーアライシ村、オンムカジェック村）にて、活用することを決定しました。具体的には、同地域にある7つの夜間学校や3つの診療所で使用できるよう整備するほか、村落において特に困窮している貧困世帯にも配布を予定しています。

1月に行った村での事前調査の様子

このソーラーランタンを活用することで、夜間学校ではよりよい環境で勉強ができ、教育の質の向上が期待されます。また、診療所や夜間の訪問診療（出産など）においても、クリーンな明かりの元、医療を提供することができます。受け取りのための手続きや日本からの輸送が完了次第の配布を目指し、配布後は一定期間その効果もモニタリングしていく予定です。

夜間学校としても使われるオンムカジェック村の学校

ザンビアだより

乾季の水不足解消に向けて、井戸掘削

ロシナンテスが事業を行う中央州チサンバ郡ムワプラ地域において、診療所および近隣住民への水の安定供給を目指し、井戸の掘削を行うことになりました。

安全な出産に不可欠な水

ムワプラ診療所は、毎年、乾季に水が枯渇する問題を抱えてきました。1日に必要な水量は、マザーシェルターだけで最大1500リットルです。さらに、周辺住民にも水を供給する場合、約3000リットルが必要で、現在の井戸にはそれを賄うだけの水量がありません。

給水所の水が枯れてしまうため、遠くに水を汲みにいく少女

とりわけ心配されるのが出産時に必要な水です。出産では、体液や血液を失う母体が脱水症状を起こさないよう、水分補給が必要になります。また、不衛生な水が原因で感染症にかかることを防ぐためにも、清潔な水が必要です。

地域住民も清潔な水の大切さは理解しており、ロシナンテスも、2020年には診療所やマザーシェルターにおける水の安定供給の必要性を認識していました。ただ、住民主体のマザーシェルターの運営を軌道に乗せることを優先したことから、2022年度に掘削を開始することになりました。

住民が主体的に井戸を管理していく仕組みづくり

今回、マザーシェルターに昨年設置したソーラーパネルを動力とする井戸を掘削する予定です。農村地域は断水や停電が頻繁に発生し、長年、住民の頭痛の種でした。ソーラーパネルによりこの問題が解決されます。

同時に、モノの提供で終われば、誰も管理に責任をもたず、後に故障しても誰も直さない事態になりかねません。地域住民が主体的に管理する意識を作っていくこともNGOの大切な役割です。2021年から、私たちはムワプラ地域を構成する村の代表者の会議に参加しては診療所を取り巻く問題を話し合ってきました。この会議では、毎月の保健活動の報告や診療所の人員補充の話など幅広い議題が話し合われます。この会議体の下に新たに水管理委員会が立ち上がりました。井戸の運営をこの委員会が担い、対象世帯から維持に必要な経費の徴収も行います。同時に維持管理に必要なルール作りも行いました。

井戸の掘削には約1ヶ月の時間が必要となります。今は雨季で掘削がしづらい季節ですが、乾季となる5月あたりの完成を目指しています。

紆余曲折…スタッフハウス建設〈続編〉

前回の遠回りで進捗をご報告した、ムワプラ診療所職員のためのスタッフハウスが、外壁のペイントを終え完成いたしました。当初は2か月で完了する予定だったのですが、様々な紆余曲折があり、なんと8か月もの時間を要することとなりました。

外壁のペイントを終えたスタッフハウス

設計から建設まで、地域住民が主体

スタッフハウスの構想が住民側から挙がったのはちょうど2022年2月でした。人口7000人ほどのムワプラ地域をカバーする医療施設スタッフが不足しており、出産や診察を少ない人数で回さざるをえない状況でした。診療所を管轄する行政は問題を認識していたものの、住居建設費用を確保できる予算がありませんでした。緊急性が高いと判断し、住民もお金を出しあうことを前提に資金の拠出を決めました。ロシナンテスが住居を建てるのではなく、住民が設計し、業者を手配し、建設する活動に、資金の一部を協力する形で参加しました。

昨年6月に完成する予定だったが…

ところが、いざ建設を開始した後は紆余曲折の連続でした。元々は2ヶ月程度で終わる予定でしたが、結果、施設の完成までに8ヶ月ほどかかりました。

一番の問題は予算の見積もりの甘さでした。必要な資材調達に予算額以上を使っており、作業する職人に払う給与を抑えていたため、職人が不満を抱きストライキが発生しました。作業の中断を余儀なくされ、その解決には約5ヶ月かかりました。何度も解決を促し、ようやく各村の村長がそれぞれ追加の資金を出しあうことで合意、2022年11月に本体が完成しました。実は、トイレも一緒に建設する予定だったのですが、これらの問題が原因となり、2023年3月時点で未だ完成していません。建設を続けるかどうかの住民らの話し合いは続いています。

問題も住民たちで解決できるよう見守る

この問題を解決するにあたって、ロシナンテスは見守る立場を貫きました。せっかく住民主導で進めてきたものなので、話し合いを主導することはせず、一参加者として会議に参加し解決を促しました。進捗が遅くても、彼らにできることは彼らで解決していかなければ、オーナーシップが生まれないからです。すぐの解決を求めず見守るのは難しいことですが（特に期限がある場合…）、私たちに必要な要素です。

入居した男性スタッフのハマンバさんは大喜びです。それまでマザーシェルターで妊婦さんたちと一緒に生活していたため、自分の住居ができてより生き生きと仕事をしています。現在、ヘルスポストは人事異動により1名が去り、3名の職員が新たに派遣され、合計5名でのローテーションが実現しています。

右から2人目が入居したハマンバさん

ザンビアで新たな課題、結核医療への挑戦移動型レントゲンで富士フイルムと連携

ロシナンテスは、2023年の3月から1年間、富士フイルム株式会社様の協力のもと、中央州の4つの医療施設において、移動型のレントゲン機器をテスト的に導入し、これまで見過ごされてきた結核患者を発見し、治療を促す活動を行うことを決定しました。

従来、検査を受けるには、患者が2～3時間かけてレントゲンがある病院へ行く必要がありますが、今回の機器は持ち運び可能であるため、レントゲンを患者が住む近くの医療施設に持ち込み検査を行うことができる点が特徴です。

結核感染率の高いザンビア

ザンビアは、世界的に見ても結核患者が多く、感染率が高い国です。2019年にWHOが発表したザンビアの推定発生率は10万人あたり338人ですが、アフリカ全体の推定結核発生率が10万人あたり237人であることを考えると、アフリカの中でも高い数値となっています。

結核検査では、最初にPCR検査を受け、陽性であれば治療へ、陰性であっても、疑わしい症状が残る場合は医師の診断のもとレントゲンをとる必要があります。ところが、PCRテストを実施できる施設は限られており、ましてやレントゲンが取れる病院は更に限られるため、患者の移動に負担がかかり、これまで適切な治療につながって来ませんでした。また、遠くの病院に向かうには乗合いバスを利用せざるをえず、他の人への感染も起きていました。

現在ロシナンテスは、この仕組みの実現に向けて、中央州の保健局と交渉を重ねています。まず1年間試験的に導入し、その機器の効果、仕組み自体の効果を検証する予定です。データで効果が実証できれば2024年度以降の本格的な導入を目指しています。

レントゲンについての説明会の様子

国際保健のレジェンド 喜多悦子先生がザンビアを訪問

喜多先生は、現在笹川保健財団の会長をつとめておられ、国際医療協力分野で豊富な経験をお持ちの、国際保健のレジェンドとも呼ばれる方です。そんな喜多先生に、川原理事長と高山理事からラブコールをしたところ、2月1日から8日までのザンビア滞在が実現しました。ルサカから車で3時間の距離の、ロシナンテスが建てたマザーシェルターがあるムワプラ診療所にも、2度も訪問してくださいました。

写真：上山敦司

「ザンビアは平和だけど、紛争地で支援するのと別の難しさがあるね」

「40年前に国際協力を始めて、医療の質は随分と良くなって来たけど、次のステップに行くことができていない」

「今までの国際協力を超える、Ver2のようなものを模索していく必要がある」

と、至極の言葉をいただきました。

また、喜多先生は「Ver2の模索は高山先生も交えて一緒にやっていきましょう、またザンビアに来ますね」との嬉しい言葉を残され、当地を離れていかれました。

喜多先生、ザンビアにお越しいただき、本当にありがとうございました。

医学生がザンビアを訪問、学びの場を提供

高山理事のザンビア駐在がきっかけとなり、医療人材交流が行われています。これまでに、東京大学、一橋大学、広島大学などから多くの医学生がザンビア事務所に学びにきています。今回訪問した学生さんたちの感想の一部を抜粋してご紹介いたします。

写真：上山敦司

【東京大学医学部6年生より】

巡回外来やカンファレンス、母子検診などの見学に参加させて頂きました。設備や環境は日本のものとは大きく異なる状況の中で、現地の良さや特徴を活かしながらより良い医療体制を構築しようとするロシナンテスのスタフの方々の姿が印象に残りました。ロシナンテスは、現地の人々のモチベーションを上げながら彼らの積極性を活かして、良い方向に変えて行こうとしていました。持続可能であり独自の良さも引き出せるこの考え方や、それを実行するための人を巻きこむ熱意や努力を学び、今後の人生に活かそうと思いました。

ザンビアの子どもたちが水族館をオンライン体験

ロシナンテスは一般財団法人沖縄美ら島財団と連携し、ザンビアの子どもたちに沖縄美ら海水族館を体験してもらう「美ら海遠隔授業 in ザンビア Aquarium Live Online Lectures」を開催しました。2023年1月には、ザンビアの首都ルサカ州の高校生200名、そして2月には、中央州の小児病院の子どもたちと沖縄美ら海水族館をオンラインでつなぎ、美ら海水族館の研究員や学芸員によるガイドツアーや質疑応答などが実施されました。

当日、生配信でジンベエザメやマンタを見た高校生たちは、歓声を上げ驚きながらも、たくさんの質問をしてくれました。海の生き物や環境に接する機会のない内陸国ザンビアの子どもたちが、水族館と繋がり海洋環境について学んだほか、日本とザンビアの相互の国際理解が深まる機会にもなりました。

子どもの死亡を減らしていくために ザンビアのヘルスポストから

ヘルスポストまでの長い道のり。ザンビアの村落部では、診療所まで歩いて何時間もかかるところも多い

ロシナンテスでは、理事であり、地域医療と公衆衛生の専門家である高山義浩医師に昨年11月よりザンビアに駐在いただき、専門家の観点から事業への様々なアドバイスを受けています。この度、ザンビア村落部を視察する中で、この国が抱える母子保健の課題について寄稿いただきました。ぜひご一読ください。

ぐるぐる巻きにされた新生児と一緒に、村のヘルスポストへと女性が運ばれてきました。今朝、自宅で産んだばかりだそう。新生児は、すでに息絶えていました。理由は分かりません。

運ばれてきた…と言っても、夫が押す自転車の荷台に座って、1時間半かけて揺られてきたのです。出血が続いていないことを確認して、そのまま自宅へと帰っていきました。水子となった新生児も、小さな茶色い鞄に入れられて、ふたたび母親と一緒に揺られています。

統計に表れないケースも

出産後6時間の見守りが、この国のルールとなっています。それでも、こちらで見守ることができるはずですが、7人の子どもたちが待っているので帰らなければならないと…厳しいです。

ザンビアの新生児死亡率は、公式統計で2・4％（日本は0・08％）となっていますが、実際はもっともっと高いのだろうと思います。今回の新生児も統計に載るのかどうか、定かではありません。妊産婦死亡率は、出生10万人当たり213・0（日本は5・0）と、500人が産まれるたびに1人のお母さんが亡くなっていることになります。

医学的に管理された出産を普及させれば良い…という単純な話ではありません。医師も看護師も不足していて、そもそも村のヘルスポストには看護師すらいません。雨が降れば道はぬかるみ、自転車ですらアクセスは悪くなります。陣痛を抱えながら、女性は何時間も歩かなければなりません。

ザンビア政府は自宅分娩を禁じているが…

ザンビア政府の統計（2014年）によると、出産の42％が自宅で行なわれています。政府は、自宅での分娩を禁じていますが、現実とのすれ違いが拡がっているかもしれません。むしろ、政府が自宅分娩を支援する「産婆＝伝統的助産」は違法となり、彼らへの支援と教育が手薄になっている可能性もあります。

早々に解決策が見えてくるわけではありませんが…伝統的助産を切り捨てることなく、ヘルスボランティアとの連携をとること。妊婦検診を普及させて、ハイリスク分娩に早く気付ける体制とすること。その結果を踏まえた、妊婦教育を普及させること。周産期を安全に過ごすことができる場（自宅環境の改善も含む）を増やしていくこと。夫の押す自転車に揺られ、7人の子どもの待つ家へと帰っていく母親を見送りながら、そんな必要性を漠然と感じておりました。空は果てなく、道のりは遠い…

現地の住民たちと意見交換をする高山理事

雲外蒼天

世界的な物価上昇 スーダンは今

世界的な物価上昇が続いています。世界通貨基金（IMF）が2023年1月に発表した経済見通しによれば、2022年の世界のインフレ率は8・8％となっており、新型コロナウイルス流行前の約2・5倍の数値となっています。2023年以降、上昇率は減少していく予想がされているものの、依然としてインフレ状態が続いています。

背景にあるウクライナ侵攻

この世界的な物価上昇は、コロナ禍における労働力不足から来る供給力不足、また消費者の行動の変化によりモノに対する需要が高まったことなど、複数の要因により2021年から生じていました。その需給バランスの不均衡に、ロシアによるウクライナ侵攻が拍車をかけました。ロシア・ウクライナ両国は、世界のエネルギー・食糧の供給に占める割合が高く、小麦の輸出においては、ロシアは世界第1位で、第5位のウクライナと合わせて世界のおよそ3割の小麦供給を担っています。またトウモロコシや天然ガスなどは両国で20％、石油は11％となるなど、一次産品における主要なサプライヤーです。そのため、ウクライナ侵攻による両国からの輸出の減少、およびロシアの制裁によるロシア産品への価格の上乗せの結果、世界の食料品価格が大きく高騰しているのです。

スーダンの政治経済 主な動き

	経済	政治
2017年10月	米国による経済制裁解除	
2019年 4月		バシール独裁政権崩壊
2020年12月	米国によるテロ支援国家指定解除	
2021年 2月	通貨切り下げ	
2021年10月		軍によるクーデタ
2022年 2月	ウクライナ侵攻、通貨大暴落	
2022年12月		文民主導の暫定政権設立に合意

過去10年で最悪のインフレ率のアフリカ

特にアフリカ地域は、この物価高騰による影響を先進国よりも受けやすく、現在深刻な食料危機に見舞われています。アフリカでは、2022年の消費者物価の平均インフレ率が13・8％と過去10年で最高となり、特にサハラ以南アフリカの4分の1以上の国で、食糧のインフレ率が20％を超えるなど、食料価格の高騰が人々に深刻な影響を与えています。世界銀行によると、アフリカで飢餓に苦しんでいる人は5人に1人を上回り、深刻な食料不足に陥った人は2022年は推定1億4000万人となり、前年より約2000万人も増加しています。

アフリカ諸国は、主にエネルギーや食糧でロシア・ウクライナに依存している国々が多いです。サハラ以南アフリカでは、穀物の15・3％をロシア・ウクライナから輸入しており、小麦に至っては、約3分の1を依存しています。そのため、今回のウクライナ危機により、特に食料分野において甚大な影響がもたらされています。

政治不安に加え経済も悪化するスーダン

ロシナンテスの活動するスーダンでは、ウクライナ侵攻以前からインフレの影響を受けやすい危機的な状態でした。2019年にバシール独裁政権が崩壊して以降、政治・経済両面における混乱が続き不安定化しています。民主化に向けた動きを歓迎し、アメリカによる経済制裁とテロ国家指定が解除され、経済の回復が期待されましたが、いまだ成長はマイナスへ転じたままです。そして、2021年には財政健全化政策の一環として為替レートの変動制の導入およびレートの切り下げが行われたことで、スーダンの通貨の価値が大幅に下がり、この年のインフレ率は382％にまで上昇しました。そのような経済の混乱のさなかに、2021年10月のクーデターで、実質的に政権は軍主導となり、欧米各国や国際社会の援助停止により、再び世界から孤立する厳しい状況におかれています。

こうした中、起きたのがロシアによるウクライナ侵攻でした。スーダンは、小麦などのロシア産作物への依存が高く、これを契機に2022年通貨の大暴落が起こりました。インフレのさらなる高まりと新たな経済政策として補助金が撤廃されたことによって、電気などエネルギー価格の大幅な値上げが行われ、燃料価格に至っては、2023年1月時点で約150倍の価格上昇となっています。

ロシナンテスにも苦境、現地の人々はいま

現地では、燃料価格の値上がりも生活に大打撃を与えています。電気のない地域の多いスーダンでは、ソーラー以外の発電機を使うにも燃料が必要です。交通手段であるバスの運賃も高騰しています。また、値上がりだけでなく、供給不足も起きています。燃料不足により、ガソリンスタンドでの給油には数時間の行列になったり、首都では調理ガスも入手困難になることが度々あります。加えて、長時間の停電と断水がおこるなど、人々は苦しい生活を強いられています。

ロシナンテスのスーダン事務所では、こうした生活面での苦労に加えて、物価高騰のために、当初想定していた予算では事業資金が足りなくなるなどの問題に対処しなくてはならず、日々奔走しています。私たちが大変な状況であるということは、スーダンの人々はもっと苦境にたたされているということです。今できることは限られているかもしれませんが、スーダンの経済の好転を願いつつ、ロシナンテスは、この国の人々と寄り添って支援活動に尽力していきます。

日々ツラツラ日記⑬ 「マザーシェルターに宿泊してきました！」

こんにちは、ザンビア出張中の立花です。

マザーシェルターに宿泊し、妊婦さんや診療所のスタッフさんと素敵な時間を過ごしてきました。

診療所では、深夜に出産が始まることも、早朝に急患が来ることもあります。24時間フル稼働の日々を5人のスタッフで回しており、週に1～2回は、往復数時間かかる村にも歩いて診療に向かいます。

ナースのグエンさんは、カブエという大きな街の出身ですが、村落部で働くことを希望しムワプラ診療所に配属されました。休憩時間になっても人が途切れるまで診療を続ける、とても意欲的な女性です。

夜は夕食をごちそうになり、ザンビアで人気のドラマ（7人の妻がいる男性が主人公のお話）を楽しみ、好きなインド映画や恋の話（スタッフは遠恋が多いんです…！）で盛り上がりました。

心強い同志たちと共に時間を過ごし、私ももっと頑張ろうと気持ちを新たにすることができました。私たちにできるのは、彼女たちの努力ではどうにもならないことをサポートし、働きが最大限活かされるよう支えていくこと。引き続き考え、動き続けていきたいと思います。

主食のシマづくりを教わりました、重労働です

診察中のグエンさん

NEWS & IMFORMATION 国内ニュース&お知らせ

理事長 川原尚行が、九州大学の客員教授に就任

川原(左)と九州大学総長 石橋達朗氏(右)

ロシナンテスの理事長 川原尚行が、2022年12月より、九州大学客員教授に就任しました。

九州大学は「総合知で社会変革を牽引する大学」を目指しており、実現に向けて「組織的な国際協働」や「最善の医療を追求」などを掲げています。こうした背景から、アフリカのスーダン・ザンビアで保健医療の支援活動を行う川原が、客員教授を拝命することとなりました。今後、アフリカの大学との連携推進や、アフリカにおけるデジタルヘルス領域での協働等を検討していく予定です。

九州大学は川原の母校

川原は、1992年に九州大学医学部を卒業後、九州大学病院の第二外科(現:消化器・総合外科)に入局、1997年に九州大学大学院医学系研究科を修了しています。

大学院修了後の外務省勤務時代、NGO立ち上げ前に個人で奮闘していた時期を含め、九州大学は、長年川原のアフリカでの活動を応援してくださっています。また、消化器・総合外科教室では、現在も「留学者」として川原の籍を残してくださっています。このことは、外務省医務官の職を辞し所属先がなくなったときや、アフリカで困難に直面したときに、本当に大きな心の支えとなりました。

理事長・川原よりコメント

「長年の心の支えであり、多くの繋がりがうまれた場所でもある、母校の客員教授を拝命できたことを大変光栄に思います。アフリカの大学との共同研究なども進めていけるよう、積極的な連携を目指します。国際協働の強化を目指す九州大学の一助となれるよう努めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。」

希少な「白いはちみつ」が、ロシナンテスへの寄付付き商品に

2022年12月16日より、Boina　Malanaが販売するキルギス産の蜂蜜「エスパルセットホワイトハニー」に、ロシナンテスへの寄付付き商品が登場しました。

寄付金は、ロシナンテスがアフリカのスーダン・ザンビアで行う保健医療支援の活動に使用されます。

現地の生産者の収入向上を目指し、キルギスの養蜂家と直接取引を行うBoina　Malanaが、日本での販売活動を通じて世界の現状を発信したいと始めた取り組みです。おいしい蜂蜜を購入することが、アフリカの支援につながります。

白いはちみつ、「エスパルセットホワイトハニー」とは?

エスパルセットホワイトハニーは、ピンク色の花が咲く高山植物「エスパルセット」の蜜だけを採蜜した非加熱蜂蜜です。色が白く、滑らかで、上品な甘さがありながら後に残らないスッキリさも特徴です。

Boina Malana代表 佐々木成光氏コメント

発展途上国と呼ばれる国を多く訪れる中で、いい素材・商品を扱っているのにも関わらず収入が低い現地の人々と触れ合い、この現状をなんとかできないかと考えたことが、今の商品販売のきっかけです。

せっかく販売するなら、商品だけでなく今起こっている世界の現状を知ってほしい!触れてほしい!と思い、買い物を通じて世界をサポートできる仕組みを整えました。

https://shop.boinamalana.com/

【スーダン・ザンビアへの応援付】
・エスパルセットホワイトハニー(小)
50g 950円
(税込 うち寄付200円)
・エスパルセットホワイトハニー(中)
130g 2,100円
(税込 うち寄付300円)
・エスパルセットホワイトハニー(大)
270g 3,900円
(税込 うち寄付400円)

遺贈寄付の専門家報酬の一部を助成する「フリーウィルズキャンペーン」ロシナンテスが賛同パートナーに

ロシナンテスは、一般社団法人日本承継寄付協会が主催する「フリーウィルズキャンペーン」の賛同パートナーとなりました。

これは、人生の集大成としての恩送りができる「遺贈寄付」の文化を広めるため、専門家報酬を助成するキャンペーンとして、一般社団法人日本承継寄付協会が国内で初めて実施したものです。全国の士業、金融機関等遺贈寄付の相談を受ける専門家への報酬を対象に行い、寄付を検討する方への負担軽減を目的にしています。

本キャンペーンは、2023年3月31日で終了しましたが、寄付文化の醸成や遺贈寄付をより身近なものにするため、これからも協働していきたいと思います。

遺贈寄付パンフレット ご用意しています

近年、「法定相続人がいない」「社会への恩返しがしたい」など様々な理由で、認定NPO法人や公益法人などに、遺産を寄付したいと考える方が増えています。当団体でも、ご自身の財産や相続された財産を、有効活用したいとお考えの皆さまのお手伝いをさせていただいています。

遺贈にご関心のある方へ、専用のパンフレットをご用意しています。資料をご希望の方は、事務局までお気軽にお問合せください。

お問い合わせ内容に「遺贈パンフ希望」と記載ください。
(お電話やEメールでも受け付けております)
https://www.rocinantes.org/request/

EVENT IMFORMATION 国内イベント情報

2023年5月20日(土) 北九州・東京 同時開催 【参加費無料】
【ご支援者様限定】職員と語ろう!「ロシナンテお茶会」

支援者様とロシナンテス職員で、のんびりとトークする座談会「ロシナンテお茶会」を開催します!このイベントは、ご支援者の皆さまの声を聴き、相互に交流していける場として開催しているもので、今回は、ひさしぶりの会場開催です。当日は、今回同封している寄付者アンケートの結果をお伝えしながら、皆さまと一緒にこれからのロシナンテスの活動を考えてみたいと思います。支援者様であればどなたでも大歓迎!「ロシナンテスの職員ってどんな人?」「ロシナンテスにちょっと聞きたい、ちょっと伝えたい!」と思ったあなたもお待ちしております。スーダンのお茶やザンビアコーヒーを片手に、ロシナンテスの職員とゆったり交流してみませんか?

定員:各15名　参加費:無料
日時:2023年5月20日(土)15:00開始／16:00終了
(北九州・東京同時開催)
申込URL:https://forms.gle/oKdrY9U7dpuAEc7T9
締切:2023年5月18日(木)9:00

【北九州会場】北九州市立商工貿易会館7階 701会議室
住所:福岡県北九州市小倉北区古船場町1番35号
【東京会場】CaReealize京橋会議室
住所:東京都中央区京橋3-7-10東宣ビル地下1階
※北九州、東京以外の地域で、開催をご希望される方はぜひご連絡ください!

2023年6月17日(土) 【参加費無料】
【ご支援者様限定】2022年度活動報告会

2022年度に実施した事業について、また、2023年度に実施を予定している事業について、皆様にご報告する活動報告会を開催します。皆さまからのご支援がどのように現地に届いているのか、理事長及び各駐在員からお伝えできればと思います。

日時:2023年6月17日(土)14:30開始／16:00終了　定員70名
場所:北九州市商工会議所　大ホール
住所:福岡県北九州市小倉北区紺屋町13-1　毎日西部会館 9階
申込URL:https://www.rocinantes.org/news/event/?no=155
締切:2023年6月15日(木)9:00

2023年5月14日(日) 【参加費無料】 オンライン
ムワプラ診療所へようこそ!ザンビアオンラインツアー

この度、ロシナンテスの事業地であるムワプラ診療所を訪ねるオンラインツアーを実施いたします。

本ツアーでは、診療所や、ロシナンテスが建設したマザーシェルターへ皆さまをご案内します。近隣の村の様子や、宿泊している妊産婦さんたちの生活もご覧いただければと思います。

日時:2023年5月14日(日)15:00開始／16:30終了
※オンラインツアー形式で皆さまをご案内します。
申込URL:https://www.rocinantes.org/news/event/?no=156
締切:2023年5月11日(木)9:00

国内イベントレポート EVENT REPORT

1月8日(日) 皆さまのご支援でできたこと～2022年を振り返って

クーデターや新型コロナ、インフレなど、思うように事業を実施できなかった数年を経て、2022年は様々な事業を動かすことのできた年でした。感謝の気持ちを直接お伝えしたく、理事長の川原による活動報告会を開催いたしました。ご参加いただきました皆さまからの質疑応答について一部ご紹介します。

Q.スーダンはイスラム教、ザンビアはキリスト教が中心ですが、活動をする上で大きく異なった点はありますか。
A.最初は、特にイスラム教の方は色々な面で大変なことがありました。「男女を別」にする必要があるため、診療するうえでも女性を診るのはどうしたらよいか検討する必要がありました。また、教育の面でも、基本は男子と女子を分ける必要があり、活動にもその配慮が必要でした。しかし、慣れてくるとやりにくさはあまり感じません。私はそういった面ではスーダン人化してるような気がします(笑)。

Q.現地で特に苦労していることを教えてください。
A.一つは、経済の状況が悪いという点です。私たちは円を米ドルにして、それを現地通貨にかえます。日本は昨年円安になったため、ドルが少なくなって、困りました。もう一つは、やはり治安です。スーダンは治安が本当に安定しないため、情報を得ながら、デモを行なっている場所には行かないようにする、などの判断をしています。
また、ザンビアでは、現地企業に発注した仕事がうまくいかない、といった問題もありました。現地で発注する企業は、多く存在する中国系企業ではなく、現地企業への発注を推奨されているのですが、実際はなかなか思う通りに進まないことがあります。

2月5日(日) スーダン 学校事業完了報告会

これまで栄養改善事業、給水所の建設事業等を行ってきた北コルドファン州で、老朽化した学校の改修、建設が完了しました(詳細は遠回り1面にてご説明しています)。報告会では、現地駐在員より、新しい校舎や、生徒、地元住民たちの様子を写真と共にご報告しました。ご参加いただきました皆さまからの質疑応答について一部ご紹介します。

Q. 新しい学校には電気はありますか。
A.地域一帯に電気が通ってないので、ありません。村の中では自分でソーラーパネルを購入している人もいるが、電線はない状態です。

Q.学校は何部制に分かれていますか。男子と女子で分かれていますか。
A.この地域では一部制です。進級試験の最終学年を対象とした夜間学校は行われています。
中核となる村では、小学校でも男子校と女子校に分かれています。その他の村では、人口がそこまで多くなく、男女を分けると生徒数に対して先生の数も足りないため、共学になっています。高校では男女分かれています。

Q.厳しい経済状況の中で子どもたちを学校に行かせる余裕はありますか。
A.小学校までは徒歩圏で通えることが比較的多く、小学校に行っている子どもは多いと思います。数字で見ると就学率は、2017年(クーデター前)のデータで、小学校60%、高校47%で(世界銀行データ)、半数以上の子どもは就学できるチャンスに漕ぎ着けています。一方で、制服を買ったりする余裕がないために、学校に行けていない子どもたちもいます。